学校番号	109

令和２年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	改訂版「倫理」　（数研出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

基本的に①自己に対する理解を深め、②古代からの思想家の考えを学びつつ、③自分自身の生き方をとらえなおし、④歴史・社会や世界に関する自分の考えをふかめ、自分なりの世界観や人生観を築いていく手がかりとしていく。できれば読書やニュースなどを通して、社会の情報をとりいれつつ、自己の考えを広げ深めていってほしい。

2　学習の到達目標

人間尊重の精神に基づき、青年期における自己形成と人間としてのあり方・生き方について理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	過去の思想家の考えと人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、正義・真理・平和・民主主義などについて人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。	倫理思想に対する関心を高め、意欲的に問題を考察するとともに、自己の考えを論理的に表現できる能力を身に着けようとする	読書や新聞、討論などを通じ、現代の社会と人間にかかわる思想に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の主な思想や宗教の考え方やその実態をよく理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	授業態度 発問評価 課題の提出 レポートの提出	授業態度 発問評価 課題の提出 レポートの提出	授業態度 発問評価 課題の提出 レポートの提出	授業態度 発問評価 課題の提出 レポートの提出 定期試験の評価

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期前半	第2編人間としての自覚・古代ギリシアの思想	・哲学が人生や世界の全体的な意味や目的について探求する学問であることを理解し、人間としての自覚を深め、生きる意味について主体的に考えて、自らが「哲学する」ことに関心を持つ	○	○	○	○	a：人間の自然や社会に対する考察がどのようにして始まり、どのように思考したかを理解する b：初期の哲学者が、何に興味をもち、どのように思考の論理を組み立てていったか、真理の普遍性をどのように考えたかなどについて考える。 c：ソクラテス・プラトン・アリストテレスによって「善く生きる」という倫理的な問いかけが、どのような視点から追求され、展開されているかについて考察する。 d：ソクラテスのアレテーについての考察が、ポリスの崩壊とともにどのように変化し、世界の広がりに対応した思想が形成されてきたかを理解する	授業態度 発問評価 課題提出 レポート提出
一学期後半	第二変人間としての自覚・キリスト教第2章東洋思想の源流	宗教と人間生活 ・命の尊さと重さを教える宗教の意義を理解し、それを一人ひとりの生きる課題と重ね合わせて考え、人生について思索を深める ・キリスト教誕生の前史を含めキリスト教の人間観を理解し、他者とともに生きる自己のあり方についての思索を深める。 ・イスラームの成立の歴史や基本的な教義について学び、聖俗一体となったイスラーム社会と文化への理解を深める。 ・仏教が人生の不安や苦悩と向き合い、生命あるものに対する慈悲を説くことを手がかりに、生命の深さや無常の世における人間の生き方について思索を深める。 ・古代中国の先哲の思想を手がかりに、どのように望ましい社会生活をおくるべきかという課題について考える。	○	○	○	○	a：ユダヤ教の段階での宗教思想を考察し、神と人間・神と民族の関係について理解している b：キリスト教の隣人愛にこめられた「愛の思想」を手がかりに、キリスト教の普遍的な愛と、それを他者とともに生きる自らのあり方・生き方に生かす知識として身につけている。 c：イスラームの基本的な教義を知り、その倫理的な意義を知るとともに、宗教と社会の関係について理解している。 d：古代インドや古代中国の思想について理解し、それが日本に与えた影響について理解する	授業態度 発問評価 課題提出 レポート提出

二学期	第三編現代に生きる人間の倫理・西洋近代の思想	科学的思考と哲学 ・科学的なものの考え方についての先哲の思想を手がかりにしながら、人間と自然とのかかわりや、科学的なものの考え方について考察する。 ・ベーコンやデカルトの真理探究の方法を手がかりに、理性的なものの考え方とともに、科学的な考え方の基本を考察する。 ・民主的な社会の形成の基礎となった先哲の思想を学び、人権の由来、権利と義務など、民主社会での倫理的な見方や考え方を考察する。 ・資本主義社会の成立過程の中で、望ましい職業観や勤労観を身につけ、働くものが幸福になれる社会のあり方を考える。 ・個人と社会全体の幸福のかかわりについて考え、社会で人々とともに幸福を目指すことの大切さについて理解する。	○	○	○	○	a：西洋近代の思想が人間の尊厳をどこに求め、何を基礎に科学的な思想と方法を作り上げてきたかを理解する。 b：自由・平等に生きる権利が尊重される民主社会は、どのような思想から生まれたのか、民主社会の構築の理論を知り、民主主義とは何かを理解する。 c：現代の競争社会の中で、幸福は自分だけのものか、他者とともに幸福になる道はあるかという考察の中で、ベンサムやミルの功利主義思想や社会主義思想について理解する。 d：現代に多く見られる他人指向型の行き方を克服し、真実の自己の生き方を主体的に選び取る主体性を養うための実存主義などの思想を理解している。	授業態度 発問評価 課題提出 レポート提出
二学期後半	第四編国際社会に生きる日本人としての自覚	日本で育まれた自然観宗教観 ・古来日本の風土や文化を学び、外来思想とのかかわりの中で伝統思想が形成されてきたことを理解する。 ・日本の伝統的な信仰と仏教とのかかわりが生み出した日本独特の信仰の形を知り、日本人の生活習慣や年中行事の意味について学ぶ。 ・日本が受容し、日本で発達した仏教思想を知り、民衆の心の弱さや苦悩やとそれらがどう対峙してきたかを理解する。 ・江戸時代の儒学諸派を起こした先哲が儒教をどのように受け止め、それらが近代日本社会の中でどのような影響を与えているかについて学習する。	○	○	○	○	a：日本の文化や思想の形成が、その独特の風土や外来思想からどのような影響を受けて形成されてきたかについて理解する。 b：仏教がどのように受け入れられ、伝統的な信仰とどう重なり合って存在してきたか、またその中で日本人の生活習慣がどのようにつくられてきたかを理解する。 c：仏教の民衆化に伴い、日本で発展した仏教思想が民衆の心と生活の苦悩をどう解決しようとしたのかについて理解する。 d：朱子学や陽明学といった思想が日本でどのように展開され、またそれと対峙する形で国学などが発展していったのかについて理解する。	授業態度 発問評価 課題提出 レポート提出

三学期	第四編国際社会に生きる日本人としての自覚	庭園に見る美意識 ・庭園美を通じ日本と外国の置かれた自然条件や生活条件の違い知り、その美意識の特徴を理解する。 ・日本の伝統的な美意識を学び、美の価値を追求することが人生観の形成の要因の一つであることを理解する。	○	○	○	○	a：建造物や庭園の違いなどを知ることによって、主に欧州や中国の美に関する思想を理解する。 b：日本人が培ってきた独自の美の考え方を知り、日本独特の美意識の特徴について理解する。 C：日常生活の中で日本庭園や日本的美意識に関する興味を持ち、実際に庭園見学などに努めること。 d：現代の新しい庭園の形式や美意識のあり方などについてよく理解している。	授業態度 発問評価 課題提出 レポート提出

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。